



リーダーシップを発揮した経験から、
年次に関係なく積極的に
行動できる自信を得て、
実践につなげることが
できるようになりました。



多様な価値観に触れた経験から、
答えのない課題に
取り組むための柔軟な思考力と
問題解決力が大きく成長し、
自身の働く教育現場で
いかせるスキルとなりました。



フランスで得たユニバーサルデザインや
バリアフリーの知見をもとに、
産業医として健康管理に加え、
職場環境改善や情報提供の
工夫を提案しています。



キャリアに磨きを。 世界で広がる、あなたの可能性。

内閣府青年国際交流事業 日本代表青年募集

【募集期間】
2026年2/16(月) → 4/17(金)

申込・詳細はHPから
内閣府 青年国際交流



意外と多い！社会人の仲間

社会人の皆様の応募をお待ちしております！



<近年、社会人で参加する人が増えています>

参加者と社会課題について率直に意見を交わす中で、世代や立場の異なる参加者と協力しながらチーム全体を見て行動する力を養うなど、旅行や短期の交流では得られない実践的な経験を得た。（令和7年度、企業勤務）

所属先には、事業への参加が可能となるよう、勤務体制・スケジュール等を調整してもらったり、会社の自己投資支援制度を参加費用に活用することを認めもらった。（令和7年度、企業勤務）

東南アジア各国の文化や宗教の違いなどを学ぶことができ、各国の文化や宗教の違いについてより一層尊重する姿勢で、業務に取り組むようになった。（令和6年度、公務員）

語学やグローバルな繋がり、多面的な視点などいざという時に役立つことが多かった（例えば、事業参加後に乗務の通訳に抜擢され経営層とコネクションを持つことができる機会を得た）。（令和6年度、企業勤務）

職場にて、私がイタリアで学んだ障害者に関する取組や事例を共有することで、周りの職員を巻き込みながら、より学びを深めて、地域社会に貢献していきたい。（令和7年度、医師）

多様な価値観を持つ青年とひとつのプロジェクトを作る過程で、英語力やマネジメント能力、交渉力が身に付いた。同時に、リーダーシップを発揮する良い機会になったと思う。（令和5年度、フリーランス）

<事業への参加を積極的に奨励する企業もあります>

普段から外国とのつながりがある会社であることから、普段の業務にいかしてもらうため、事業参加を通じて、社外の外国青年とネットワークを構築したり、語学力を含めて社員個人の成長につながったりすることを期待して送り出した。